

心豊かな世代が育つ

童話の里づくり 449

―シリーズ― あなたの人權・わたしの人權

『人それぞれの当たり前』

くす星翔中学校 3年

穴井 周太郎

みなさんは、「LGBT」という言葉を知っていますか。

「LGBT」とは、レズビアン、ゲイ、バイセクシャル、トランスジェンダーの頭文字をとって組み合わせた言葉です。

同性が恋愛対象の人、異性も同性もどちらも恋愛対象の人、「身体の性」と「心の性」が一致しない人がいます。

僕は、これらのことを最近になって初めて知りました。自分とは性的指向、性自認が異なる人がいることに興味を持ちました。

例えば、会話の中で女性のAさんに対して、

「Aさん、恋人ができたんだよね。」

Aさんの彼氏ってどんな人？」

という問いかけを聞いたとき、何か感じることはありませんか。

大半の人は、Aさんの恋人は男性と思うでしょう。しかし、「LGBT」に目を向けてみると、そうとは限りません。

女性の恋人は「彼氏」、男性の恋人「彼女」というイメージが定着していますが、同性や両方の性を好きになる人もいます。

僕はいつも自身の「当たり前」を基準に考えていたので、僕にとって「LGBT」はとても難しい話でした。

男性なのに女性のような格好をする、女性なのに男性のような格好をする。その人にとっては、「当たり前」のことなのに、周りの人たちからは普通ではないと認識されています。

その結果、偏見から差別にまで発展することがあると思います。

性的少数者に対する偏見や差別の

例として、「男らしくない」「女らしくない」とからかったり、「問題があるのでは」「気持ち悪い」などうわさ話をしたりするなどが実際に起こっています。

偏見や差別は、相手をきちんと理解することでなくせると思います。そして、それが誰もが過ごしやすい環境につながると思います。

「LGBT」について知っていくうちに、「LGBT」だけではくれない「LGBTQ」という言葉を知りました。「Q」が表すのはクエスチョニングで、自分自身のセクシュアリティを決められない、分からない人のことを指します。

この言葉を調べてから、さらに「Xジェンダー」「Aロマンティック」「Aセクシユアル」「パンセクシユアル」という4つの言葉を新しく知りました。

僕は、これらの言葉を見て、性について今までとは見方が変わりました。「性のあり方」は、こんなにも多様性のあるものだと思わされたからです。

この多様性を多くの人が勝手なイメージで、マイナス方向にもっていつてしまつて、やがて、それが世

の中の「当たり前」となつてしまつていきます。

最近では、「LGBTQ」という言葉が世の中に広がっているように思います。少しでも認知度が上がれば、性的少数者の生きやすい環境がだんだん生まれていくと思います。

理想は、差別や偏見が無くなることです。そんな簡単なことにはいきませんが、一人ひとりが性的指向・性自認について理解を深め、自分たちができることを実行するのが大切です。

一つ目「多様な性について知る。」
二つ目「習慣・常識を変える。」
三つ目「理解者を増やす。」

たかさんの人が性的少数者を理解していれば、性的少数者の人も「自分の居場所がある」という実感を得られるとともに、差別も自然と減っていくと思います。

なにか不都合なことが起きたとき、それは差別やハラスメントにつながるものではないか、見直してみましよう。また、性的少数者に限らず、相手を理解し安心感を与えてくれる人がいれば、悩んでいる人も前向きな気持ちになれると思います。